

令和7年度学校関係者評価報告書

学校法人川江学園
お宮の里幼稚園

1. 本園の教育目標

「心豊かdeganばる子ども」の姿を目指して、子どもの好奇心や探究心を引き出す環境を整え、遊びを通して様々な学びや体験ができるよう援助していくことで子ども達の人間形成の基礎を培い、心身の発達を助長する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

教育目標と教育方針は園として大切なため、本年度もより深い浸透を目指すこととし、職員間による話し合いや学期ごとの振り返りを全体で共有して、意見を交わすよう心掛け、職員一人ひとりの教育方針の理解度を向上させていく。

3. 評価項目の取組と成果

| 総括評価 A:達成できた(4) B:概ね達成できた(4未満~2.6) C:一部改善を要する(2.6未満~1.5) D:改善を要する(1.5未満) | | | | | | | | | |
|--|-------------------|--------------|---------------------------------------|------|----|--|-----|--------|--|
| 重点的に取り組む目標 | 評価項目 | 評価指標 及び 評価結果 | | | | | | 自己評価結果 | |
| | | 基準 | 取組指標 | 取組結果 | 基準 | 成果指標 | 成果 | 総括評価 | 取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見 |
| 好奇心を育む環境構成 | 好奇心を育む環境構成 | 4 | 子どもと一緒につくる環境構成 | 3.5 | 4 | 子どもと話し合う場を作り、子どもの興味関心のある環境と一緒に作るようになった | 3.5 | B | 学年や時期(学期)によって子どもと一緒に環境を作る難しさもあるが、子どもの興味関心のある遊びを環境校正に反映することができた |
| | | 3 | 子どもの興味関心のあることを掲示したり、コーナー作りをするなどの環境構成 | | 3 | 一緒に掲示物を見て言葉をかけることで子どもの好奇心や意欲が高まる姿がみられるようになった | | | |
| | | 2 | 子どもが好奇心を持って探究できるコーナーを準備する | | 2 | 子どもが現時点で好奇心がわいてくる材料や見本を準備できるようにした | | | |
| | | 1 | 同学年担任と環境構成について話し合いをする | | 1 | 子どもの興味関心の高いコーナーの充実とそうでないコーナーを再構成することで一つのコーナーに集中することが少なくなった | | | |
| 教育方針に基づいた保育計画の策定 | 子どもの興味関心の読み取り | 4 | これまでの経験(学び)を踏まえた子どもの姿と興味関心の移り変わりを整理する | 3.5 | 4 | 子どもの遊びを経時的に説明することができるようになった | 3.3 | B | 子どもの遊びが長続きしないことが多く、遊びこむまで至らないことが多くあった。環境作りの課題または声掛けの課題がある |
| | | 3 | 保育者のかかわりによる遊びの広がりが | | 3 | 子どもが主体的に遊びを広げられるためのかかわりや言葉かけができるようになった | | | |
| | | 2 | 子どものつぶやきや行動から興味関心を把握する | | 2 | 遊びの中で子どものより深い興味関心に目を向けて、言葉をかけられるようになった | | | |
| | | 1 | 子どもの遊びの中に入って一緒に遊ぶ | | 1 | 子どもが主体的に進めることを大事にしながらか一緒に遊んでいる | | | |
| 子どもの興味関心を踏まえた保育計画 | 子どもの興味関心を踏まえた保育計画 | 4 | 保育を実践した結果を同僚と話し合いながら検証する | 3.7 | 4 | 同僚との話し合いで、遊びの広がりについて視野を広げて考えるようになり、それを保育計画に活かせるようになった | 3.4 | B | 同僚との話し合いは比較的出来たように思われるが保育計画への連続性が図られることは少なかった |
| | | 3 | 子どもの興味関心を一斉保育へ展開していく | | 3 | 子どもの興味関心と学びを結び付けた保育を考えるようになった | | | |
| | | 2 | 子どもの姿を踏まえた遊びの広がりについて同僚と話し合いをする | | 2 | 子どものつぶやき、行動等について同僚と共有するようになった | | | |
| | | 1 | 遊びの広がりや保育計画について園内研修を行う | | 1 | 遊びの深化や広げ方についての話し合いを繰り返すことで子どもの姿に対する観察眼が養われてきた | | | |

4. 総合的な評価結果

| 評価 | 評価の理由 |
|----|---|
| B | <p>・職員一人ひとりのレベルアップを目的に一昨年、昨年と同様に教育方針に基づいた保育計画の策定を重点目標に設定した。全教職員間において教育方針を確認し、保育や計画の策定を繰り返し振り返り、共有を図ることで、職員間における課題の内容がレベルアップしてきていることが窺えた。全体評価はBとなったものの、各項目における平均点数はどの項目についても一昨年、昨年を上回る結果となった。</p> <p>・しかし、子どもの興味関心の読み取りや子どもの興味関心を踏まえた保育計画の策定については評価が低い傾向にあることから興味関心の読み取りや保育計画への派生について理解を深めていく必要があると思われる。</p> |

5. 今後取り組む課題

| | 課題 | 取り組み方法 |
|---|------|---|
| 1 | 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内の設備、遊具等についての安全チェック項目の整理 ・ヒヤリハット情報の迅速な共有化 ・子どもの危険察知力の向上 |
| 2 | 言葉がけ | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関係づくりの言葉がけ ・子どもが好奇心を抱く言葉がけ ・子どもが自分で考えようとする言葉がけ |

6. 学校関係者評価委員会の評価

子どもの興味関心を読み取り、それを保育計画へ繋げていくという教育方針は簡単なようでいて、実は難しいものと認識しています。教諭の子どもの姿を読み取る力、それを保育計画に展開していく力が必要とされるため、職員における力の底上げが重要と思われ、すべての教諭の水準が底上げされるには課題もあるように思われます。

今後、指導する教諭が積極的に協力することで、一定の水準を維持した保育計画になることを目指して下さい。

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員会実施日

令和8年2月27日